

[6]

氏名	江 斌 <small>こう ひん</small>
博士の専攻分野の名称	博士（工学）
学位記番号	理工博第 86 号
学位授与の日付	2021 年 9 月 20 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	インフラストックとしての都市公園の活用方策
論文審査委員	主査教授 北詰 恵一 副査教授 尹 禮分 副査教授 尾崎 平

論文内容の要旨

本論文は、自治体の財政状況が必ずしも良好ではないなかで、都市公園に対するニーズの多様化や利用期待の高まりを受け、都市公園を新たに整備するのではなく、既にあるものをインフラストックと捉え、柔軟な方法で活用していく方策を明らかにすることを目的としている。より具体的には、効果的な運営方法、その幅広い展開、新たな公園の役割、その役割の向上策を含むマネジメントのあり方を明らかにすることである。

本論文の特徴は、公園の運営側と利用側の両面からアプローチしていることである。特に運営側では、近年見られる官民協働による具体的な事例の効果を実態調査に基づくデータから旅行費用法によって得られる消費者余剰として定量的に計測し、その効果が 11%認められることを明らかにした。また、公園に対する官民協働の取り組みが豊富な中国の事例から、都市規模・公園面積・投資バランス・プロジェクト型という要素に基づき 5 つのグループに類型化を行い、その類型要素に応じて官民協働手法が幅広く展開可能であることを明らかにした。一方で、利用側では、公園の役割としてソーシャルキャピタルの醸成に着目し、北摂地域の公園を対象とした利用者アンケートデータから、市によってソーシャルキャピタルの各要素に違いがあり、同じような官民協働事業であっても、例えば「つきあい」を醸成する効果が発揮できない場合があることを指摘した。さらに、それらの役割を同様に果たすと考えられる公民館、類似民間施設、SNS などと比較し、公園によるソーシャルキャピタル醸成の役割をさらに高めるため、SNS や民間施設と組み合わせた規範及びネットワークの観点から相乗的な取組が必要であることを提案した。

論文審査結果の要旨

本論文は、既にある公園をインフラストックとして捉え、それを活かすことで公園の価値を高めようとする取り組み方策を明らかにすることを目的としている。その中で、公園を運営する側面から、新しい利用形態を実現するための官民協働の取り組み効果が存在することを定量的に計測して確認したこと、既に取り組みが進む中国の事例から運営方法の多様性を捉える要素を明示しつつ類型化し、官民協働の取り組みの展開方向の道筋をつけたことが評価できる。また、利用者側からは、公園の役割のうちソーシャルキャピタルの醸成に着目し、規範、信頼、ネットワークの枠組みに基づき分析をしたうえで、複数の公園での共通点と相違点を示し、さらに、類似する役割を担うと考えられる公民館、民間施設、SNSの利用状況において相関する点から、連携することによる活性化方策を提示したことが評価できる。都市公園については、今後、多様なニーズに応える新しい取り組みが運営・利用者双方に求められることから、本研究の結果は、社会的にも意義のあるものと捉えることができる。

このようなことから、本論文は博士論文として価値あるものと認める。